

# 世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農業機械テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農業機械情報。

## Crab injection with Xerion オランダ

## カニ走りのトラクタ

※前輪と後輪を同じ方向にステアリングする4WSで、斜めにカニ走行する。一般的な4WSは、前輪と後輪を逆方向に向けて走行するカウンターステアリング。回転半径が小さいので狭い場所を曲がるのに便利。



オルデンホフ社は、「ゼリオン」トラクタに機体長が長いスラリインジェクタを直装するため、クラブステアリング機能は重要。

第一の理由は、容積12m<sup>3</sup>のタンクが大きな4輪のタイヤの真ん中に設置され、車輪への荷重が均等に分散されることだ。さらに、クラブステアリングモード時は、タイヤの踏圧を最小限に抑え走行できる。また、通常の4WS（カウンターステアリング）にもなり、小さな圃場でも小回りが利く操縦が可能だ。馬力はあり余るほどで、クラス社によれば最大246kW/355HPだという。

「ゼリオン」は、自社の多くの要求を理想的に満たしてくれるトラクタだと、同社は評価する。

オランダのヘールデにあるコントラクター企業、オルデンホフ社は、国内に2台しかないクラススの「ゼリオン」トラクタを1台所有する。同社では、長い間、緑と白のクラススカラーの機体をトレードマークにしてきた。このトラクタは3台目なる。最新のこのトラクタには、クラブステアリングやクラススが新たに開発した「スウィング」3点ヒッチが装備されており、作業機を直装した状態でもクラブステアリングモードのまま運転できる。オルデンホフ社では、「ゼリオン」の後に機体長が長いスラリインジェクタを直装することが多いので、これはとても重要な機能と言える。

## Mulching improves grazing 南アフリカ

## 草マルチによる牧草地改良



刈り取られた草が草マルチになり、草刈り機の作業幅一杯に均一に散布される。

「フィールドマルチャ」の最新モデルは2m幅で草を刈る。頑丈なギアボックスを備え、キクユグラスのようながっしりした牧草でも短く刈り込むことができる強力パワーがある。マルチングの効果は著しく、牧草は驚くほど生長するという。細かく切り刻んだ牛糞と一緒に撒かれると牧草の成長はさらに良くなる。

「フィールドマルチャ」の最新モデルは2m幅で草を刈る。頑丈なギアボックスを備え、キクユグラスのようながっしりした牧草でも短く刈り込むことができる強力パワーがある。マルチングの効果は著しく、牧草は驚くほど生長するという。細かく切り刻んだ牛糞と一緒に撒かれると牧草の成長はさらに良くなる。

家畜に牧草を食させた後、牧草を短く刈り込むことが非常に有効だとわかり、南アフリカの酪農家の間でこのやり方が広まっている。地元企業、ファルコン・アグリック・エクイップ社はこれに応じ、多様な用途に使えるシングルロータ草刈機「フィールドマルチャ」を開発した。機体底の「ぞらせ板」が、刈り取った草を機体内に留め、草マルチとして使えるまで繰り返し細かく切断する仕組みになっている。この工程で細断された草は、草刈機の作業幅で散布される。撒かれた草片は、南アフリカの暑い日ざしの下でたちまち乾燥する。



**Draper looks a potential world beater**  
オーストラリア

**世界席卷の可能性を持つドレーパ**



コンバインの前に立つのは、(左から) クレイグ・シュット氏、スコット・ボーランド氏、デービッド・シュット氏。最新モデル、作業幅14mのドレーパプラットフォームを点検する。

クイーンランド州に、生き馬の目を抜くし烈な農機業界に参入した農家がいる。この決断は今では報われ、ミッドウエスト・ファブリケーション社として大きな収益を上げている。

オナーのシュット氏はもともと、コンバインの収穫部に取り付けるドレーパプラットフォームの設計・試験・製造・販売を家業としていた。これが市場で高く評価され、現在では同州ドルビーに工場を建設するまでに発展している。その間わずか6年という急成長ぶりだ。この工場では、プラットフォームの製造・組み立て・発送を行っている。

設計の要はサスペンションシステムにある。ドレーパの全重量が中心軸にかかるため、コンバインが水平を保ちつつ吊り下げるにはサスペンションが果たす役割は大きい。

商品名「クロップホーク」の作業幅は12〜14m。このかなりの長さをしっかりと支えられるのは、ひとえに設計の賜物だ。

※プラットフォームは、コンバインの前面に装着する収穫物に合わせ設計された収穫用ヘッダの総称。ドレーパは主に小麦用に使われるヘッダ。

**Development at Valtra**  
フィンランド

**買収されたヴァルトラの今後**



AGCOグループにフィンランドから新たに2社が加わった。システイゼルでは年頭から増産体制に入った。製造するエンジンは、米国の「Iscor」規制をクリアしている。

米AGCO社はフィンランドにあるトラクターメーカー、ヴァルトラ社とエンジンメーカー、システイゼル社を買収した。これにより、フィンランドの農機市場は激変する可能性がある。

ヴァルトラ社の売上は2005年には10%減少し、年間販売台数は約4500台に留まった。2006年にはさらに落ち込むものとの予想が一般的だった。

フィンランドのトラクター販売市場を詳しく見てみよう。ヴァルトラは依然として支配的な位置を保っており40〜45%。市場でヴァルトラを追うのは、ジョーディアの代理店ハンキャ・マタル・オウス社(17〜18%)、ケースインターとニューホランドの代理店アグリテック社(シエア17〜18%)、そして、マッセイファーガソン、ドイツ、サメ、クボタを扱うケスコ社(シエア16%)だ。

当面の大きな問題は、売上が減少し続ける農業市場に代わる別な市場を開拓することだ。さまざまなアイデアがあるが、公共・民間の建築事業に売り込むべきというのが大勢を占める。また、石油価格が高騰しエネルギー源としての木材が再び注目されているため現在、林業へ進出すべきだとする人もいる。

AGCO社はシステイゼル社を買収することで、始めてエンジンメーカーを自社に抱えることになる。ちなみにシステイゼル社は、世界に巨大な市場を持つ携帯電話のノキア社と同じ市にある。

同社は、エンジンの年間生産台数(今後2年間)を、今のおよそ2倍の5万台にする計画だ。生産力アップは、親会社のAGCO社が3000万ユーロ(約43億円)を投資したことで実現した。